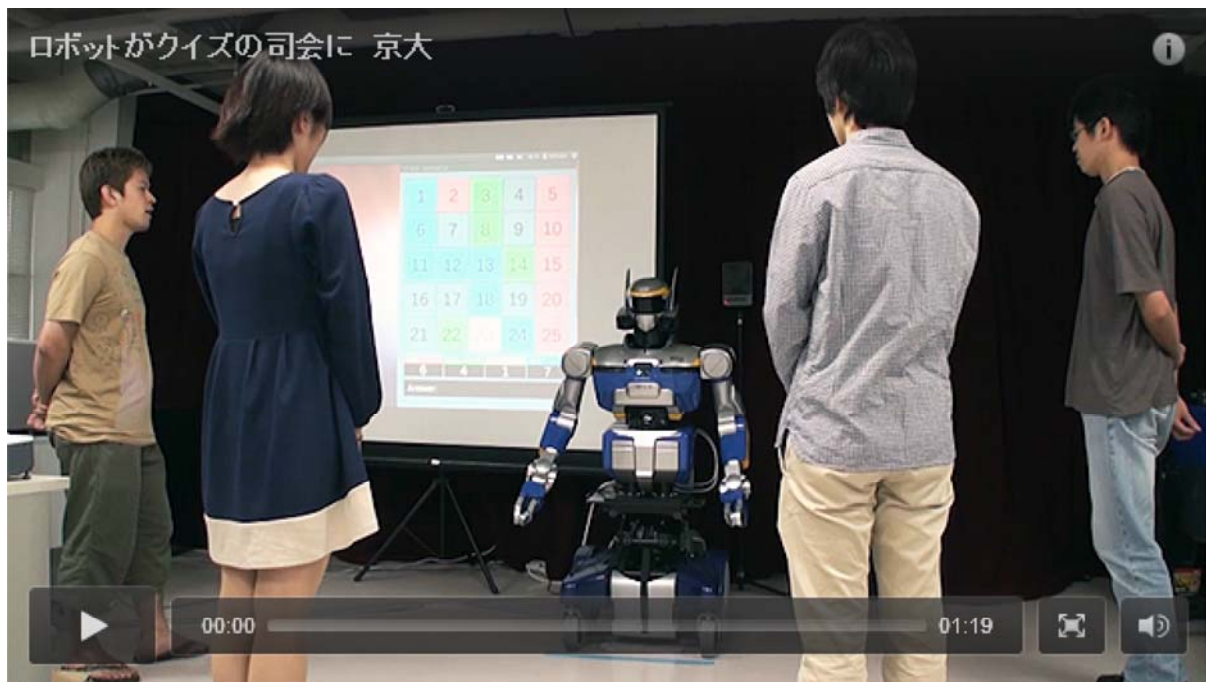


## ロボットがクイズ司会 人工知能で解答者判断

京大・早大開発、介護などに応用

2014/9/22 12:50 | 日本経済新聞 電子版

京都大学の吉井和佳講師らは早稲田大学と共同で、クイズの司会を務めるロボットを開発した。人の声を高度に聞き分ける人工知能を使い、最初に声を上げた人を指名して正解と不正解を判断する。最先端の人工知能を実現するのが狙いで、人の話を理解する技術の確立をめざす。多くの人とふれあう介護や家庭用ロボットの頭脳に生かす。



市販の人型ロボットに人工知能を搭載した。声の方向から名乗りを上げた解答者の順番を0.06秒の差で判別。4人を前に「本やCDなどで100万以上売れた作品を……」と合成音声で問題を読み上げ、解答を焦る人が大声で割り込んでも慌てずに指名。「ミリオンセラー」との解答を正解と判定した。不正解は「そっちにいつちやったか」などと切り返し、有名クイズ番組を再現できた。

介護や家庭で使うロボットは雑音を気にせず相手の発言から意図を理解する必要がある。クイズの司会は技術を試す格好の課題だ。

人工知能の研究ではクイズに答えるコンピューター「ワトソン」を米IBMが事業に生かそうとしている。ワトソンは2011年に人気クイズ番組で人間のチャンピオンに勝った。

**NIKKEI** Copyright © 2014 Nikkei Inc. All rights reserved.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。